



Title: Renal rehabilitation learning in Japanese physical therapy schools: a fact-finding study

(日本の理学療法士養成校における腎臓リハビリテーションの学習に関する実態調査)

Authors: Toshiki Kutsuna, Yuhei Otobe, Ryota Matsuzawa

忽那俊樹（東京工科大学 准教授）、音部雄平（大阪公立大学 講師）、松沢良太（兵庫医科大学講師）

Journal: Renal Replacement Therapy IO (2024) 9

掲載年月: 2024 年 3 月

研究概要: 日本の理学療法士養成校における腎臓リハビリテーションの学習に関する実態を明らかにすることを目的として、全国規模でのアンケート調査を実施しました。

研究背景: 慢性腎臓病は、心血管疾患や脳血管疾患の原因の一つであり、末期腎不全への進行や生命予後の悪化を引き起こすことが知られています。日本において慢性腎臓病を有している者は 1,480 万人と推計されており、透析治療を行っている患者さんは 34 万人を超えています。慢性腎臓病の治療としては、生活習慣の指導や薬物療法を含めた適切な疾患管理を実施することが推奨されており、近年では腎臓リハビリテーションが注目を集めています。腎臓リハビリテーションは多くの種類のプログラムで構成されていることから、さまざまな医療職がその専門性を活かしながら患者さんへ関わるのが効果的です。特に運動療法是腎臓リハビリテーションの中核であり、運動療法の専門家である理学療法士が果たす役割には大きな期待が集まっています。腎臓リハビリテーションを広く普及させるためには、適切な教育を通じて、幅広い知識や技能を有する人材を育成することが不可欠です。腎臓リハビリテーションに関する教育については、医療者の資格を取った後の卒後教育は充実しているものの、養成校における卒前教育でどのように実施されているかについては不明です。

研究成果: 日本の理学療法士養成校の約 80%で腎臓リハビリテーションに関する授業が実施されていました。また、授業を実施している養成校はそうでない養成校と比べて、所在地に偏りがあり、内分泌代謝疾患・消化器疾患・がん患者さんに対するリハビリテーションに関する授業を実施している割合が高く、養成校の担当教員が腎臓リハビリテーションを学生時代・卒業後に学ぶ必要があると回答した割合が高いことが明らかとなりました。授業を行っていない理由としては、「他に優先的に教えるべき分野がある」、「時間数が足りない」、「教員の専門でない」の順に回答数が多い結果でした。腎臓リハビリテーションを普及させていくためには、養成校の教員がその重要性を感じることができるよう啓発活動を進める必要があることが示唆されました。

社会への影響: 今後は腎臓リハビリテーションのエビデンスをより一層高め、学術団体が中心となって啓発活動を行い、卒前教育内での普及を図っていくことで、適切な腎臓リハビリテーションを提供できる理学療法士が増加すると期待されます。それによって、腎臓病患者さんの生活の質の改善に寄与できると考えられます。

専門用語:

腎臓リハビリテーション: すべての腎臓病患者さんの円滑な社会復帰を支えるために、運動療法、食事療法、薬物療法、心理的サポートなどのあらゆる手段でサポートを行うための、長期にわたる包括的なプログラムを指す（日本腎臓リハビリテーション学会：腎臓リハビリテーションガイドライン、2018 より引用）

理学療法士: ケガや病気などで身体に障害のある人や障害の発生が予測される人に対して、基本動作能力（座る、立つ、歩くなど）の回復や維持、および障害の悪化の予防を目的に、運動療法や物理療法（温熱、電気等の物理的手段を治療目的に利用するもの）などを用いて、自立した日常生活が送れるよう支援する医学的リハビリテーションの専門職（日本理学療法士協会ホームページより引用）